



学生編

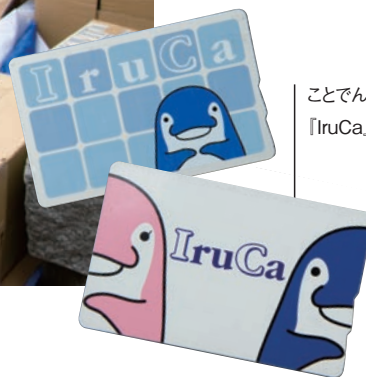
X

香川大学 大学院
工学研究科 安全システム建設工学専攻2年

樋口 綾さん

高知県立高知小津高等学校出身

背景となる「4町パティオ」はバラソ
とアートを常設する憩いの空間。樋口
さんの所属する研究室もしばしばこ
でシンポジウムを開催している。



ことでのICカード
「IruCa」

目指すは「建築」と「まちづくり」を結ぶ人。 人が集まる“まちづくり”に携わりたい!

人をつなぐ住環境デザイン

私が学ぶ『環境政策工学(住環境デザイン)』の目的をひとことと言えば「人と人、場所と場所をつなぐ空間を創造し、安全で快適な生活環境をつくる」こと。人の身の回りにある水、緑、地下、道、住まい、“まち”といった環境がどのような技術を用いてつくり、守られているかを知り、人をつなぐ住環境デザインを創り出すことがテーマです。今、求められているのは、「建築」と「まちづくり」をいかに結びつけるか。建築家というものは基本的に建物単体を設計する人。周囲の環境やまち全体のすべてを見通しながら設計する人は稀です。そして、まちづくりを行う行政は建築のプロではない。お互いがバラバラに行動するがために、なかなか快適で美しいまちができないのが現状です。その一見近そうで遠い存在の両者を結びつける役割の人が必要とされています。

「人の感情」でまちを色づけする

今、私が調べているのは、人が商店街を訪れる際に、どんな感情をもって回遊しているのかということ。その際に活躍するのが「IruCa」。地元の「ことでん」(高松琴平電気鉄道)が発行しているICカードで商店街を訪れる人がどこに行ったか、どこで買い物をしたかといった回遊情報とその場所を訪れた際に抱く感情情報が得られるようになっています。蓄積したデータをもとに、「にぎやかエリア」「癒しエリア」といった人の感情でまちの色分けができ、人はそれを見て行動する。回遊情報をもとにまちが新たに育っていくわけです。

高知の田舎で育った私にとって、毎日の生活での拠り所が商店街でした。でもそれが今、日本全国で廃れてきている。人が集まれる楽しいまちを再びつくりたい、それが私の夢ですね。

わたしの就職活動

就職では大学で学んだことを活かせること、地元への社会貢献度が高いことを目安に企業を回りました。建設プロジェクトの計画や設計を行う建設コンサルタント会社に内定し、来春からの仕事を楽しみます。

ひとこと

建築系を志す人は、たくさんの建造物を見ることをおすすめします。私も大学で「建築同好会」に入り、直島、猪熊弦一郎美術館など四国はじめ国内外の有名建築を見てまわり、批評し合いました。ちなみに香川県庁舎は丹下建三の設計です。

